

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：藤沢市立湘南台保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：川崎 信子	定員（利用人数）：120名 （利用人数：114名）
所在地：〒252-0804 藤沢市湘南台6丁目31番地6号	
TEL：0466-43-3830	ホームページ： http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：1973年5月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：藤沢市	
職員数	常勤職員：23名 非常勤職員：9名
専門職員	園長：1名 副園長：1名
	主任：1名 保育士：20名
	用務員：1名（5園兼務） 調理員：3名
	保育補助：3名 調理業務員：2名
	事務員：1名
施設・設備の概要	保育室：7室 トイレ：5か所
	調理室：1室 事務室：1室
	園庭：有

③理念・基本方針

<p>【保育理念】 生きる力の基礎を育む保育</p> <p>【保育方針】</p> <ul style="list-style-type: none">子ども一人一人の健やかな心身の発達を保障し生き生きと育てる保護者と子育ての共有を図り、育ちを支える地域に開かれた保育園として子育て家庭の支援に積極的に取り組む <p>【保育の目標】</p> <ul style="list-style-type: none">※様々な欲求を適切に満たし、生命の保持及び情緒の安定を図る。※基本的な生活習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培う。※人との関わりの中で、人への愛情や信頼感そして人権を大切にすることを育てるとともに、自主、自立、協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培う。※生命、自然、社会事象についてに興味や関心を育て、豊かな心情と思考力の芽生えを培う。※言葉への興味や関心を育て、話す、聞く、相手の話を理解しようとするなど言葉の豊かさを養う。※様々な実体験を通して豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培う。※乳児保育においては、受容的、応答的な関わりを通して「人への基本的信頼感」を育む。

④施設・事業所の特徴的な取組

- ・湘南台保育園は湘南台駅から徒歩で10分ほどのところにあり、周辺には公園も多く、緑に囲まれています。また総合市民図書館や、市民シアターやこども館などが併設されている湘南台文化センターなどの文化施設もあります。それらは園外活動の場にもなっており総合市民図書館でのお話し会や子育て支援センターの交流に参加しています。また、近隣の公園に散歩に出かけ自然と触れ合う機会を設けたり、公園まで歩く経験を積み重ね体力作りにつなげています。道路を歩くため、子どもたちが交通ルールを身につける機会にもなっています。
- ・園庭が広く子どもたちがのびのびと体を動かして遊ぶことができます。乳児は探索活動をしたり広い砂場での砂遊びがお気に入りです。幼児は三輪車やスクーターに乗ったり、走ったり、固定遊具で遊ぶことを楽しんでいます。他年齢が同時に園庭で遊ぶことができるので、自然な形で異年齢交流が見られ、関わりの中で相手を思いやる気持ちを育てています。また、園舎の裏には畑があり、用務員とナスやオクラ等の野菜を育て収穫し、調理員に調理してもらい、自分たちで育てた野菜を食べる機会を作り食育を進めています。
- ・運営方針として「カラフル・パワフル湘南台」を掲げています。「様々な色（カラフル＝多様性）を持つ子どもたちを“そのままがいいよ”と受け止め、保護者と協力して大切に育てていく」「保護者、保育士がともに力を合わせ、一人一人の力が大きな力（パワフル）となり湘南台保育園の力となっていく」全職員と思いを共有し、保育をすすめています。
- ・乳児クラスは、担当制保育を基本とし、保育士等が子ども一人一人の気持ちを受け止め、丁寧に関わることによって愛着関係を築き、子どもたちが安心して過ごせるようにしています。家具等で広い空間を区切り、少人数で落ち着いて過ごせるようにしています。
- ・幼児クラスでは「なんでも、まず、やってみよう」を合言葉に保育を進めています。できてもできなくても、保育士は子どもたち一人一人の力を信じ、ありのままを受け止めながら、自信をもって行動できるようにしています。「ミックスジュース」という名称の異年齢交流は子どもたちにとっての楽しい活動の一つになっています。その中で一緒に遊んだり、同じ活動をすることによって、年齢の大きい子が小さい子のできないところを助けたり、小さい子が大きい子の真似をしたりして、優しい気持ちや憧れの気持ちを育てています。
- ・湘南台保育園は、保護者にとって安心して子どもを預けられる場となるよう、保護者に寄り添い、子どもたちの成長を喜び合いながら信頼関係を築いています。そのため子どもたちの日々の様子について、連絡表や口頭で伝えるとともに、保育の様子を写真で掲示し伝えています。
- ・地域交流、園庭開放をはじめ、関係機関（子育て支援センター等）と連携しながら、地域の子育て支援に取り組み、地域に開かれた保育園を目指しています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年5月22日（契約日） ～ 令和6年2月26日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2017年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1) 保育チームで子ども主体の保育の実践

園長は、職員へ、大切な命を預かる立場としての保育者として大切なことを事務所へ

明示しています。また、毎年の保育について「藤沢市保育所における全体的な計画」を踏まえて、園目標は「生き生きと遊ぶ子ども」を掲げ、子どもの様子や家庭の状況を考慮し、発達に応じて理念や保育方針に基づいた保育内容について保護者へ説明しています。乳児の保育では「身近な人と気持ちが通じ合う」「生命の保持」「情緒の安定」等を育むこと、幼児保育では「社会性の育ち」「主体的に活動する」等、さまざまな活動を通じて子どもの育ちへとつなげています。保護者へは各クラスの掲示板に「今月の保育」として保護者へ知らせており、保育の振り返りを写真に言葉を添えて掲示し、写真から見えてくる子どもの姿から保育内容の理解につなげています。日々、職員同士が密に連絡を取り合うなど、全職員が共有しながら保育の反省、振り返りを行っています。振り返りから見えてきたことは次の保育で生かせるようにし、一人一人の子どもを大切に支援を実践しています。

2) 公立保育園として地域の子育て支援に積極的に取り組んでいます

地域の子育て支援事業として、子育て家族への支援に積極的に取り組んでいます。子育て支援事業は年間を通して、園庭開放や育児相談、地域の親子向けイベント「保育園にあそびにきませんか」などを実施しています。地域子どもの家での「子育てふれあいコーナーあいあい」では毎月育児相談を行っています。見学に来園した親子から育児相談を受けたり、一人で悩まないようにいつでも保育園に相談できることを話しています。子育て世代だけでなく、年齢層も幅広く「世代間交流」を行うなど、高齢者とふれあう機会もあり、地域情報を把握し、支援に繋げています。地域と共に育ち合うスタンスで地域の子育て支援を行っています。園の入り口にある掲示板に子育て支援の案内を掲示し、安心して子育てができる地域づくりに貢献しています。園長は、公立園としての強みとして地域の子育て支援に注力しています。

3) 安全対策に取り組んでいます

子どもたちが園庭で遊ぶときには担任だけでなく、園庭全体を見て子どもたちの安全に配慮する職員を配置しています。目立つ赤いビブスを着用して園庭で子どもたちを見守っています。鉄棒等、使用しない遊具は衝突防止のため布団で囲い、園庭の樹木の幹は藁でカバーをして子どもたちの怪我の予防をしています。教室の扉は手作りマットで子どもたちの指挟み防止の対策を工夫しています。外の手洗い場は用務員が屋根を作り、雨に濡れない対策をとっています。

4) 苦情解決の仕組みについて、保護者へ周知することが期待されます

苦情や要望に対して迅速に対応するように第三者委員による苦情解決制度や体制を整えており、玄関前に意見箱の設置と苦情解決の仕組みや第三者委員の連絡先を明記したものを掲示しています。入園面接で要望、意見について声かけの案内や意見箱の設置について書面を用意してお知らせしていますが、今回のアンケートから第三者委員などに相談できることについて「いいえ」と答えた人が16.7%の結果から保護者への周知が徹底されていないことが課題となっています。保護者からの声が届くように、より一層の周知に向けての取組が期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価受審にあたり、職員が自分たちの園のよい所や課題について話しあうことができるよう園内研修として取り組みをすすめてきました。各項目について考察していくことにより、職員一人一人にとって保育を振り返るよい機会となりました。その中で高く評価をいただいた項目につきましては園としての自信につながりました。今後も保育の質の向上について職員一同力をあわせていきたいと思っております。

また、利用者調査結果につきましては真摯に受け止め、一つ一つの課題の解決に向けて行動していきたいと思えます。
これからも子どもたちにとって、保護者にとってよりよい保育園を目指していきます。

- ⑧第三者評価結果
別紙2のとおり